

※全国農業協同組合連合会長崎県本部、品目：いちご

1. 輸出における現状と課題

令和5年産いちごの栽培面積は42haで、高齢化等により生産戸数及び栽培面積は年々減少傾向にある。

このような中、生産農家の経営安定を図るために、生産コストの低減、健苗育成による出荷の前進化と収量向上に取り組んでいる。また、後継者の育成と魅力あるいちご経営と産地の強化を図るために下記を重点事項に挙げ、取り組んでいる。

- ①農薬の適正使用と防除履歴の記帳及びJAへの提出検証の実施
- ②重要病害（炭そ病）対策の徹底と総合的な病害虫の管理
- ③高品質「ゆめのか」栽培技術の確立
- ④規模拡大及び新規栽培者の確保・育成の推進
- ⑤共同選果場拡充の検討
- ⑥大玉率向上と早期出荷対策の実施
- ⑦反当収量向上のための定期的な現地検討会の開催

国内におけるいちごの消費は、1世帯あたりの年間支出金額は横ばい又は微減傾向にあり、さらに近年、人口減少スピードが加速しており、将来的にいちご消費全体的大幅な落ち込みが懸念される。こうした環境をふまえ、海外向けに新たな販売チャネルを獲得することにより、単価の回復・維持を図るべく、海外市場への販路開拓、輸出拡大を進めてきたところ。

【課題（販売）】

- ・ブランド認知とリピート率向上させる工夫が必要。また、新たな顧客確保のため、販売店舗数の拡大が課題。
- ・需要が高まるクリスマス時期、旧正月（1月下旬～2月初旬）、バレンタイン等の催事を意識した購買意欲が高まるデザインへの改良が課題。また、店頭消費者が指で商品を触ることがあり、ロスが生じやすい。（シンガポール）
- ・当地区としていちごの輸出をしたことがなく、現地での商品知名度・評価が確立されていない。オープンパッケージについて、衛生面や購入後の移動での傷みを心配する消費者が見られる。（タイ）

【課題（流通）】

- ・商品への衝撃、輸送中の温湿度変化等により、輸出先国に到着するまでに果皮の品質劣化が発現しており、暖候期の影響を少なくするコールドチェーン鮮度維持が実現できれば、出荷時期の延長や輸出量の増大につながる。

2. 輸出事業計画の取組内容

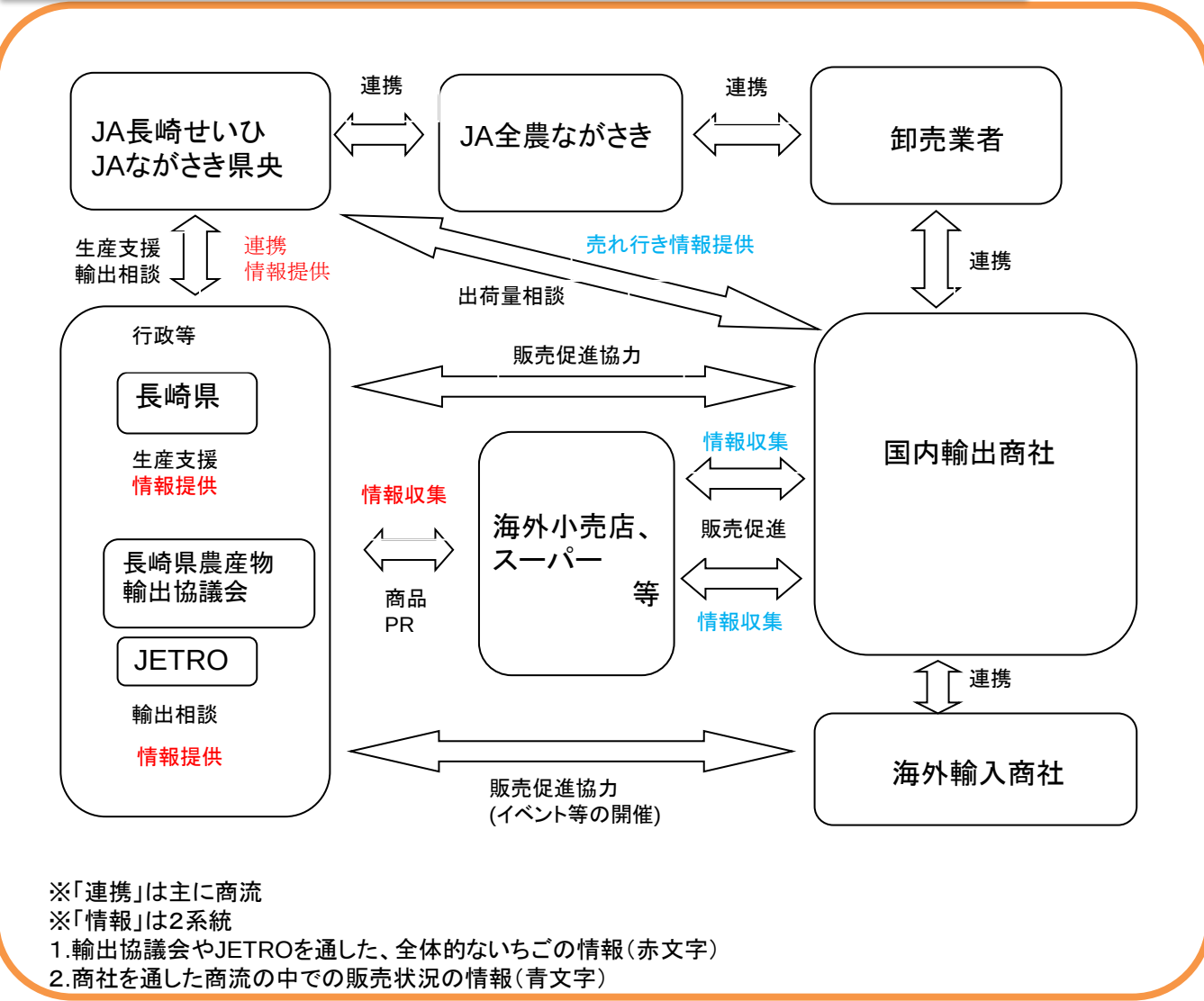
【取組（販売）】

- ・パッケージを英文・ローマ字を併記、ゆめずきんちゃん（長崎いちごマスコットキャラクター）を全面に押し出したパッケージで他県産いちごとの差別化と、輸出先国のニーズに対応した新たな輸出向けパッケージの開発を行う。
- ・レストランシェフとのイベントやSNSによる情報発信などを行うプロモーションを引き続き実施する。
- ・需要が高まる旧暦・催事を意識した購買意欲が高まるデザインへの改良を行う。（シンガポール）
- ・消費者が指で商品を触ることを防止策として蓋付パッケージを導入する。（タイ・シンガポール）

【取組（流通）】

- ・長時間輸送及び離発着時の商品への衝撃を軽減するため、福岡空港からの直通便の輸出量を増やす流通ルートの確立を目指す。
- ・品質保持機能を兼ね備えたパッケージの開発を行う。
- ・輸出量が減少する時期（4月以降）でも流通を可能とする新たな冷蔵保存技術を用いた輸送方法を導入し、長崎県産いちごの輸出先国での出回り時期の延長を図る。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

いちご	現状 (令和5年度)	目標 (令和9年度)
輸出額(千円)	6,856	10,800
輸出先国	香港・シンガポール	香港・シンガポール ・タイ